

平成 30 年度認知症施策の推進（条例の 4 つの柱に基づく分類）

（1）予防及び早期介入

○世界保健機関健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター）と神戸大学等による共同研究への協力

介護予防事業の対象者選定に用いる「基本チェックリスト」に回答した約 8 万人のデータやフレイルチェック結果データと、研究開始から 2 年後の要介護状態との、認知症関連の比較・分析を実施。本市はデータの提供等による協力・連携。

（平成 29 年 8 月 1 日より本格的に研究開始）

○認知症にやさしいまちづくり推進のための連携と協力に関する協定

〈医療産業都市にて実施〉

平成 28 年 3 月に、神戸市、先端医療振興財団と日本イーライリリー株式会社の間で協定を締結。認知症に関する臨床研究の推進や認知症に対する理解促進及び意識啓発などに取り組む。

※日本イーライリリー株式会社が理解促進・意識啓発のため、啓発ムービーを作成（平成 29 年 12 月）。

※エーザイ株式会社（平成 26 年 6 月）、第一三共株式会社（平成 27 年 2 月）と、認知症を地域で支えるまちづくりの連携や推進に係る協定を締結。

○フレイルチェック

集団健診会場や薬局等において、フレイル予防の観点に基づいた「基本チェックリスト」・健康関連の QOL 測定（EQ-5D）・認知機能低下による初期の日常生活機能の低下を評価（CFI）と、握力等の測定を実施。

※平成 28 年度末：162 名に施行実施

29 年度末：フレイルチェック 3,083 人実施

登録薬局数 381 箇所

対象者 65 歳の市民

30 年 10 月末：フレイルチェック 1,496 人実施

登録薬局数 380 箇所

対象者 ①神戸市国保加入者のうち今年度 65 歳の方

②神戸市国保加入者のうち 29 年度にフレイルチェックを受けた 66 歳の方

※フレイル：病気ではないが、年齢とともに全身の予備能力の低下、筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい状態のこと。適切な食事と運動により健康な状態にもどることができる。

○PET（陽電子放出断層撮影法）によるアルツハイマー研究 〈医療産業都市にて実施〉
アルツハイマー型認知症の特徴であるアミロイドβの蓄積を可視化し、認知症の
早期診断や鑑別診断、治療効果の研究を実施

○KOBE もの忘れネットワーク

認知症に関する臨床研究を推進するため、認知症専門医等と臨床試験参加希望者
とのネットワーク（KOBE もの忘れネットワーク）を構築している

※平成 29 年度末 委託医療機関 21 か所

（2）事故の救済及び予防

○認知症と診断された人による事故に関する救済制度を創設

※平成 31 年 4 月 1 日開始

○高齢運転者による交通事故の防止に向けて、移動手段の確保その他地域での生活
支援に努めるとともに、認知症の疑いがある人の運転免許自主返納を推進する。

【現状】あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）や「認知症初期
集中支援チーム」において、認知症の疑いがある人の自動車運転につ
いて家族等から相談に対応。

（3）治療及び介護の提供

○あんしんすこやかセンターの認知症相談対応の充実

人件費として委託料を増額

※平成 30 年度 136,800 千円（1センターあたり 180 万円）

○認知症診断制度の創設

※平成 31 年 1 月 28 日開始

○医療介護サポートセンターの設置

医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談対応や多職種連携会議の開催など、
地域での医療と介護の連携を支援

※平成 29 年度 全区設置

○認知症初期集中支援チームの拡充

医療・介護の専門職が、認知症が疑われる人又は認知症の人やその家族を訪問し、
観察・評価を行ったうえで、鑑別診断の紹介など適切な医療介護サービスにつなぐ。

※平成 30 年 3 月 全区への派遣体制確立

実績

	相談	初回訪問	チーム員会議	終結	モニタリング
H28 年度	75	62	68	33	13
H29 年度	78	74	109	42	21
H30 年度(4～11 月末)	110	110	158	49	12

○認知症疾患医療センターの増設

認知症疾患医療センターは、認知症の鑑別診断に加え、専門医療相談等を実施する地域での認知症医療提供の拠点である。

＜平成 29 年度の状況＞

5 か所（神戸大学医学部附属病院、六甲アイランド甲南病院、神戸百年記念病院、兵庫県立ひょうごこころの医療センター、新生病院）

・実績：相談 3,052 件、診断 1,490 件（5 センター合計）

＜平成 30 年度の状況＞

・10 月 1 日 宮地病院、西市民病院を新たに指定

※国の整備基準上（人口に応じて整備数が決まっている）、市内 7 か所の設置は、最大規模。

○認知症サポート医の養成

かかりつけ医への助言、専門医療機関やあんしんすこやかセンター等への連携の推進役となる認知症サポート医を養成

※平成 29 年度末 累計 124 名

30 年度 申し込み人数 37 名（内 25 人修了確認済）

○かかりつけ医認知症対応力向上研修

認知症の初期症状に早期に気づき、必要に応じて適切な医療機関につなぐため、身近なかかりつけ医を対象に、認知症の診断・治療や地域との連携等について研修を実施

※平成 29 年度末 受講者累計 559 名

30 年度 受講者 65 名

○病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修

一般病院勤務の医師・看護師等の医療従事者向けに、基本知識や医療と介護の連携の重要性、認知症ケアの原則等の知識について研修を行い、病院での認知症の人の手術や処置等の適切な実施の確保を図る。

※平成 28 年度末 受講者累計 160 名（29 年度は実施なし）

30 年度 受講者 59 名

○認知症介護研修

介護施設職員を対象に、認知症介護の知識・技術を修得させるための研修を段階的に実施。

※平成 29 年度末 受講者累計 4,517 名
(基礎、実践者、実践リーダー、介護指導者)

(4) 地域の力を豊かにしていくこと

○「地域拠点型」一般介護予防事業

「地域拠点型」一般介護予防事業は、地域福祉センター等で週 1 回 5 時間程度、体操やレクリエーション、給食、専門職による介護予防講座等、様々なメニューを地域の特色にあわせて提供している。

※平成 30 年度 11 月末時点：目標の全小学校区 165 に対し、79 地域 (112 ヶ所)

○「居場所づくり型」一般介護予防事業

高齢者の社会参加や生きがいづくりとなる身近な地域の通いの場を増やしていくため、原則月 2 回以上、通年開催されるなど、要件を満たす通いの場を運営する団体に対して、場所代などの運営費の一部を補助するものである。

※平成 30 年 12 月までに：計 55 団体に交付決定

○認知症カフェ登録事業の推進

認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが自由に参加し、気軽に相互交流や相談等ができる地域に開かれた集いの場を登録・紹介

※平成 30 年 11 月末 37 箇所

○地域包括支援センター単位での声かけ訓練の拡充

認知症の人の地域での見守り体制を構築するため、あんしんすこやかセンター単位での声かけ訓練を全区で実施する。

※平成 29 年度 全区 (9 区 24 回実施)

30 年 11 月末時点 (9 区 37 回実施)

※実施圏域：32 圏域

○認知症サポーターの養成

地域全体で認知症の人を見守るため、国が規定する研修を実施し修了者には認知症の人の理解者の証であるオレンジリングを配布。平成 29 年度は、高齢者見守り協力事業者等に重点的に認知症サポーター養成講座を実施し、生活圏域に認知症の理解者が増加した。

※平成 29 年度末 受講者累計 94,465 名 (うち企業等約 15,000 名)

○GPS安心かけつけサービス

行方不明者の事故を防止する対策として、GPS等を活用した行方不明者の早期発見・早期保護のための取組みを推進する。

※事故救済制度の付帯事業として平成31年1月28日受付開始

○高齢者安心登録事業の推進

行方不明などの心配がある在宅高齢者が事前登録を行い、あんしんすこやかセンターや警察等と情報を共有するとともに、行方不明時には電子メールで行方不明発生情報を配信し、警察への情報提供を呼びかけ、早期発見と保護を目指す。

※平成29年度 登録高齢者：598名、メール配信：34件（うち未発見1件）
30年11月末時点

登録高齢者：756名、メール配信：13件

捜索協力者の登録状況：446名

（行政115名、あんしんすこやかセンター105名、社会福祉協議会28名、介護保険サービス事業所57名、民生委員123名、その他18名）

○認知症ケアパス

認知症の症状に応じ、いつ、どこで、どのような医療・介護等のサービスを利用できるかについて、各区で地域資源を整理してまとめたもの。

※平成28年4月より各区で配布
30年度全区版を発行

○認知症地域支援推進員の配置

認知症の相談対応に加え、認知症初期集中支援事業などにおいて地域の支援機関をつなぐコーディネーター役として、各あんしんすこやかセンター等に兼務で配置している。

※平成30年11月末 113名

○行方不明者緊急保護事業

神戸市内の警察官により保護された身元不明の高齢者を、特別養護老人ホームに緊急かつ一時的に保護する。

※平成29年度 8人（10日間保護）

○「認知症の人と家族の会」と連携した認とも（訪問サポーター）の養成

認知症サポーターに上乘せ研修を実施し、訪問サポーターとして養成。認知症カフェ等を通じてなじみの関係になった認知症の人の居宅等に、訪問サポーターが訪問し、話し相手や認知症カフェへの移動支援・付き添い等を行う。

※平成30年11月末 訪問サポーター66名養成

○その他普及啓発（主なもの）

- ・5月12日 『認知症の人にやさしいまち』講演会を開催
- ・広報紙 KOBE 平成30年5月号で3ページに渡り認知症特集を掲載
- ・認知症サポーター養成講座用に作成したDVDの配布・拡充
 - ※民生委員児童委員の全地区173枚、あんしんすこやかセンター76枚等
- ・世界アルツハイマーデー（9月21日）にライトアップの取り組み
 - ※KOBE ライトアップ DAY（光のミュージアム）、明石海峡大橋、モザイクの観覧車
- ・認知症を知る取り組み
 - ※中央図書館1階フロア展示、兵庫県立美術館チラシ設置
- ・世界アルツハイマーデー記念講演会を認知症の人と家族の会兵庫県支部と共催実施（9月15日）
- ・広報紙 KOBE 平成30年10月号に条例改正（認知症対策 神戸モデル）のパブリックコメントに関する4ページの挟み込み記事を掲載
- ・上記内容のポスター及びリーフレットを各施設へ掲示
- ・「認知症対策 神戸モデル」についての特設ホームページを開設
- ・各団体向けの出前トークの実施
- ・認知症講演会の開催（主催：神戸在宅医療・介護推進財団 後援：神戸市医師会、神戸市）
- ・広報紙 KOBE 平成31年1月号に認知症診断助成制度の開始告知のための記事を掲載
- ・認知症診断助成制度の内容、実施医療機関名（住所・電話番号含む）を公表
- ・診断助成制度の開始に併せ、市民への周知を図るため、幅広い広報啓発を実施（予定）

※現在確認中